

町長所信(要旨)

最優先は
役場庁舎の耐震

6月10日公表された政府地震調査会の『全国地震動予測地図』で、徳島県における震度6弱以上の大地震発生確率が71%となり南海地震はいつ発生しても不思議ではない状況にある。牟岐町は厳しい財政状況であるが、行財政改革を進めながらも着実に地震津波対策を進めるとともに、近い将来、町が消滅しないよう、日本の中で『愛され必要とされる牟岐町』の創造を目指す取り組みを進めていく必要があると考える。

最も優先すべき課題は、役場の耐震ですが、南海トラフ地震において想定される震度7の揺れが発生した場合、建物の一部が破壊し職員の生命に危険が及ぶことが想定され、地震後、建物の使用はもちろん、侵入することもできず、災害復旧に大きな支障をきたすことが想定される。現在の町

の財政状況においても実現可能な方策を早急に検討する必要がある、ここ数年、役場耐震化に係る最善策を模索してきたが、未だ正解が導きだせていない。

現在の多様な課題、役場の耐震、避難所の確保、病院の跡地活用、地域活性化などを解決するため、やはり現在の海部病院に移転することが総合的に最善の選択であると確信しているが、現在の海部病院は築後34年が経過し、設備の老朽化、

警備の困難性などを心配する声が聞かれる。また、既に役場庁舎に設置しているイントラネットの課題もある。従って、内外関係者や専門家と組織する「役場耐震化等検討委員会(仮称)」を設置し確実に前に進めていく必要があると考える。

地方創生は
地元の人たちで

つぎに、全国的に大きな課題である地方創生ですが、昨年度末に総合戦略計画を策定し、実行に移している段階である。全ての人々が生き生きと充実した人生を送るために必要な『教育と健康』をテーマとしたまちづくりに取り組んで行く方針ですが、その手法は多岐に渡っている。そして、実行に移すのは人である。役場職員、町民の皆さん、町外の皆さんが居るが、ご承知のとおり役場職員の取組みには限界がある。また、町外からも出来る限りフレッシュな人材に来てもらえよう努めているが、これも限度がある。やはり地方創生は地元の方々が、昔の元気があった集落を取り戻すとの意気込みで取り組んでいただく必要がある。今『健康を目的とする諸活動による賑わいの創出と生涯活躍の町づくり』というところで、旧牟岐村8村の歴史・文化を再発見し、景観の保全と土産地産品の創ろうと創ろう、特産品を創ろうとの働きかけを始めている。

出羽島は伝統的建造物群、内妻は紫陽花の花街道、辺川は桜、灘はサンライン沿いの景観など、地域の素晴らしい景色を使った町づくりを、また河内・笹見は牛鬼の伝説を活用した町づくりなど、皆さんが地域の歴史・文化・景観を最大限活用し、各地域に町内外の方々を呼び込み、自らが作った飲食を販売し接待するといふ、牟岐町版DMOの開発に取り組んでいただきたいと思う。

今、町内で限界集落が増えつつある。集落に若い人が居なくなると、その集落はいずれコミュニティを形成できなくなり、各家庭が孤立してしまう。幸い、今多くの若者が田舎で子育てをしたいと、田舎の田舎を指し移住を始めています。この人達のために、部落ごと出来る限り多くの空き家を確保したいと思う。今、二人の集落支援員が貸して頂ける空き家がないか調査・依頼に回っている。牟岐町においても早期に空き家バンクを開設し、移住促進に繋がると考えている。



内妻あじさいロード